



2025年8月25日(月)

第66号

月1回発行/1部20円
(組合員の購読料は組合費に含む)

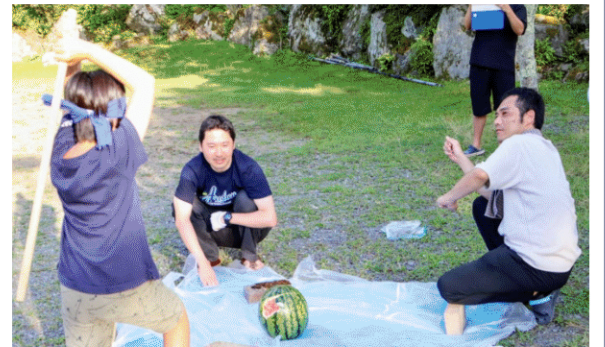
〒135-0044 東京都江東区越中島 3-5-10
TEL 03-6458-5603 FAX 03-6458-5605
http://jtsu-e.com union@jtsu-e.com
発行人 佐々木 宏亮 編集人 坂元 隆史

仲間・家族とつくった ひと夏の楽しい思い出

組合員1人ひとりにみんなが寄り添い
輸送サービス労組の団結力と組織力を高め
組合員とともに経営のチェック機能を果たす
真の労働組合であり続けよう！



7月26～27日 八王子地本「夏祭2025」 西湖津原キャンプ場



輸送サービス労組への加入 続々と!!

第8回定期大会以降
5名の組織拡大!!

会社が「社員のみなさんへ」で悪喧伝
輸送サービス労組の団結権を侵害

8月4日に開催された新幹線地本申12号交渉において、会社が「社員のみなさんへ」を通して行った輸送サービス労組に対する事実と異なる喧伝について「労使確認は会社の思い込みであった」事実を認めました。しかし、同時に事実と異なる喧伝である「社員のみなさんへ」については撤回しない考えを明らかにしました。このことから会社の目的は「輸送サービス労組」悪」としたい印象操作に他なりません。会社によるこのような対応は、断じて容認できるものではありません。

社友会では未来を切り拓けない
労働者の駆け込み寺は労働組合だけ

こうした会社のやり口に見切りをつけて、いま続々と輸送サービス労組へ加入する仲間が増えていきます。最近加入した仲間からは、左記のような本音を明らかにして輸送サービス労組の一員として奮闘する決意を語られています。

- ◆ あたたくく接してくれたのは組合の人々。管理者にそういう人はいない。
- ◆ 社友会は辞めたいと思っていた。
- ◆ 元々会社には不信任があり、組合の重要性は自覚していた。
- ◆ 会社の理不尽な行為で病気を発症。こういう会社を許せない。

働く者の権利を守る組合へ結集し
企業ガバナンスの崩壊に歯止めを

いま、JR東日本ではグループ会社を含め、倫理観を喪失した思いもよらない事象が多発しています。しかし、これらは偶然に発生しているのではなく、企業ガバナンスが崩壊したJR東日本の会社経営陣の反映だと言わざるを得ません。その上で、この企業に所属している私たち一人ひとりに責任の一端があると感じています。「金さえ・今さえ・自分さえ」の考えの下では幸せは訪れません。だからこそ、私たち輸送サービス労組はこの企業と社会に責任を持ち、利用者が安全に安心して利用できる、仲間が安心して働くことができるJR東日本の再生に向けて引き続き仲間と共に取り組んでいきます。

発信者
8月13日夜、大阪・関西万博の会場（大阪市此花区）に直結する大阪メトロ中央線で電気系統のトラブルが発生し、約8時間わたって一部の区間で運転を見合わせた。日本国際博覧会協会（万博協会）などによると、約3万人が足止めされ、多くが会場内で一夜を明かしたとのことである。▼JR東日本も他人事ではない。今年だけでも新幹線の列車分離、山手線の架線設備断線、E8系の車両不具合など、多くの利用者にご迷惑をおかけしました。まさにJR東日本の安全は危機的状況である。7月に発表したグループ経営ビジョン「勇翔2034」では「果敢にチャレンジする企業風土を一層強固なものとし、10年後の未来を自ら創るという起業家精神をさらに高めることで『当たり前』を超えていく」と謳っている。公共交通を担うJR東日本は列車を安全に安心して運行する責任がある。当たり前を超える前に当たり前を着実にやるべきである。そのためには発生した事故・事象の徹底的な原因究明と再発防止策が必要である。▼一度事故が起きてしまえば、失った信頼を取り戻すのは難しい。労働組合として経営のチェック機能を果たし、職場から安全再確立に向けて運動を進めていく！(M・N)



8月15日、戦後80年の節目を迎えた。第二次世界大戦を直接体験し証言できる人は年々減り、あと10年ほどでその証言を聞けなくなると言われている。記憶をいかに継承し風化を防ぐかは世界共通の課題である。ヨーロッパでは戦争を過去のものとする空気が強まり、ドイツをはじめ極右・保守政党が支持を拡大。日本でも歴史認識をめぐる議論が表面化している。

自民党の西田昌司参議院議員は、沖縄戦の「ひめゆり学徒隊」を「誇り高く戦った」と発言し、日本軍の加害責任を軽視した。遺族らは「悲惨な現実を風化させるものだ」と反発。参政党の神谷宗幣参議院議員も「日本は侵略戦争をしていない」「南京事件はプロパガンダ」と繰り返し、歴史を都合よく解釈する姿勢を見せている。こうした言説が広がれば、歴史の歪曲につながるかねない。7月の参院選では「日本人ファースト」といった分かりやすいスローガンを掲げた保守系政党が議席を伸ばした。こうした傾向が続けば、戦争責任や平和憲法の意義が蔑ろにされる危険性がある。その背景には、戦争の記憶が世代交代とともに急速に風化している現状がある。

私たちは戦争の歴史を沖縄等の現地に立ち、学び、想いをはせて来た。弱い者が犠牲になる悲惨さを心に刻み「二度と繰り返さない」と誓った。しかし、世界では戦争は今も続いており、ウクライナやガザでは市民が犠牲となっている。だからこそ学んだ歴史と現在の政治に関心を持ち、戦争ができる国にしてはならない。体験者の想いを受け継ぎ、子供たちの世代に同じ過ちを繰り返さないためにも風化させない決意を持つ。8月12日、日本航空123便墜落事故から40年を迎えた。事故当時から在籍する日本航空社員は今年3月末でわずか17名となり、全体の0.1%に過ぎない。悲惨さや遺族の深い悲しみをどう伝え続けるかが課題となっている。職場で

過去の歴史を決して風化させることなく、 職場の議論で次の世代に引き継ごう！

中央本線大月駅列車衝突事故(1997年10月12日発生/負傷者78名)の話題になった際、若手運転士が「取り扱い誤りの事故ですよね」と答え、私は当時の事故に強い怖さを感じたが、背景に触れず表面的な認識にとどまっていることにショックを覚えた。事故当時に在籍していた社員は現在の4万5千人の社員のうち、数千人程度だろう。福知山線列車脱線事故や羽越線列車脱線事故も同様に、当時を体験していない社員が増え、時間の経過とともに風化する恐れがある。

「勇翔2034」のグループ理念に「安全」という言葉がない。「お客さまの視点から『安全』を捉え直し『安心』に置き換えた」と説明されている。果たして今、「安心」という言葉が社員や利用者を受け入れられるのだろうか。グループ会社による人件費不正請求や輪軸圧入力値の不適切事象、独占禁止法違反等の不祥事が続いている。さらに、有識者委員会の設置後も四季島で業務を超えた飲酒が発覚する等、信頼を揺るがす出来事が後を絶たない。

また、国鉄からの脱却を意識しているが、これまで築かれてきた安全文化を変えることは許してはならない。これまで詰所等で経験豊富なベテランと若手が遅れや停止位置修正、取り扱い誤り等の管理者には言いづらい話まで日常的に共有していたが、組織再編や新たなジョブローテーションで特にベテランが異動すると率直な語り合いの場は減り「管理者に知られたら」と社員同士が共有する機会が少なくなっているのか。会社が掲げる「何でも報告する文化」が背後要因に迫ることができているのか。

私たちは過去の事故で家族を失った遺族や負傷された方々の悲痛な想いを忘れてはならない。今、過去の鉄道の事故や事象にも振り返り、事故の原因や背後要因を決して風化させず、相応しい日常的な職場風土等、未加入者も含め全ての仲間との議論から会社の安全教育等を検証し、次の世代へ安全文化を引き継いでいこう。

第三者機関を活用した取り組み
不当労働行為救済申立て

【7/28】 八王子組合員差別事件 審問が行われる

今回の審問で会社は「管理者に教育はしているが、勘違い、親心で不当労働行為と疑われるようなことを社員が勝手にやったこと」と主張し、「教育はしている」と述べながら社員(管理者)個人の責任に切り縮めた対応が明らかになりました。なお、公益委員から会社に対し、試験の可否以外の内容に関連して賞罰委員会についての質問が行われました。

一方、会社側弁護士による録音をしていた組合員への反対審問では「会社を陥れようとしていたのではないか」と問う一面があり、会社として不当労働行為と疑われる行為は許さないと主張しつつも、録音さえなければなかったことにしようとする、あまつさえ、録音をすることを悪とする隠蔽体質も明らかになりました。



2025年度 お盆期間の利用状況

【8/8(金)～8/17(日) 10日間】

■ 期間中の新幹線・在来線の利用状況 (主要16区間計)

	2025年	前年比	新幹線	在来線
下り	241.4 万人	109 %	108 %	110 %
上り	233.5 万人	105 %	104 %	108 %
計	479.9 万人	107 %	106 %	109 %

■ 近距離の利用状況 (ICカード自動改札利用延べ人員)
6,019万人 前年比 110 %

主要駅の利用実績

駅 名	人員数	前年比	備 考
東 京	201.8 万人	119 %	
新 宿	317.4 万人	109 %	
舞 浜	41.6 万人	111 %	
成田空港	7.1 万人	122 %	成田空港駅と 空港第2ビル 駅の合計

2025年8月18日 JR東日本プレスリリースより

酷暑での夏季輸送お疲れさまです！
引き続き体調・健康管理に留意し
安全・安定輸送つくり出そう！

災害レベルの危険な暑さへの警戒を

急務！命を守る熱中症対策

7月30日、「申2号」JR東日本グループで働くすべての仲間の「いのちと健康」を守る緊急申し入れに基づき、団体交渉を開催しました。

地球温暖化から地球沸騰化なる言葉が生まれるほど、深刻な気候変動に見舞われ、今夏も40℃に迫る日が連日発生しています。そのような中、JR東日本グループにおいて、2名の作業員が熱中症と見られる症状で亡くなる痛ましい重大な労働災害が発生しました。団体交渉での議論を通じて、体調不良を訴えた当該作業員に対し、休憩はさせたものの「①1人にさせてしまったこと」「②身体の冷却が不十分であったこと」などの課題が明らかになりました。そのため、再発防止対策として、今回の対応における課題を明らかにし、熱中症に対して実効性のある制度を策定させることが企業責任であること、具体的にはスポーツクーラーの設置、ファン付ベスト・冷感素材の制服配備、酷暑期の屋外作業の見直しなどのハード面、本体としてグループ会社の安全と、教育レベルの向上などのソフト面の両面から対策を整備していくことを確認しました。

■ 熱中症による死亡労働災害発生時の概況

発生場所	小山新幹線車両センター構内	幕張車両センター構内
発生日時	6月9日 00時10分頃	6月21日 12時23分頃
当日の気温	28℃	28℃
作業内容	車内でのヘッドレストカバー およびテーブル拭き	外板作業
当日の様子	各2両ずつの作業中に体調不良を訴え、サービスデッキ(長椅子)で休憩していたが体調が急変し、救急搬送された	外板作業後、体調不良を訴え、車内で休んでいたが、休憩室へ移動した後に体調が急変したため、救急搬送された

地域・社会からの信頼回復を

【7/28】全6頁全6項目 組合から会社へ提出

いのちと安全を守り、健全な企業がバナンスを確立し、
相次ぐ事故と企業不祥事への信頼回復と

地域・社会から必要とされるJR東日本を創造するための意見書

1. 交通インフラである鉄道事業者としての使命を果たすために、安全第一の企業文化の創造に全力を期すこと。また、発生している事故・事象等に対する徹底した原因究明を図るとともに、現場社員への説明をおこない安全レベルの向上に努めること。
2. 2025年5月22日に発生した山手線新橋駅構内架線断線に伴う輸送障害に対する時系列および原因(背後要因含む)と再発防止対策について具体的に明らかにすること。また、2015年神田・秋葉原駅間の電化柱が倒壊し線路支障した重大インシデントの教訓が活かされていない現状に対する見解を明らかにすること。

3. 2025年5月14日、東京新幹線車両センター構内において、あわや感電事故が発生する事象に対する時系列および原因(背後要因含む)と再発防止対策を具体的に明らかにすること。
4. 「融合と連携」などによる担務変更等の環境変化においては、安全で安心して業務遂行ができ、社員の成長に資するよう知悉ある人材育成を最優先にした教育・訓練を実施すること。
5. 「長編成ワンマン運転」の開始から4ヶ月が経過したことに対する成果と課題を具体的に明らかにすること。なお、長編成ワンマン運転開始以降、機器操作等の取扱い誤りおよび人身事故等による列車遅延の増加や、開かずの踏切問題など地域社会への影響も大きくそれらへの対策の必要性が高まっていることから、すべての人が安心して利用できる一層安全な鉄道交通を目指すために、長編成ワンマン運転の見直しを行うこと。
6. 地震・火山の噴火・風水害等の災害リスクが高まっていることに対する問題意識および対策を具体的に明らかにすること。また、東日本大震災の教訓に踏まえ、いのちを守る行動がとれるよう全社員に対し、大規模災害を想定した避難誘導訓練を定期的実施すること。

5/8提案「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた組織と働き方」

如何なる不利益変更も許さず、

すべての仲間との職場からの議論で要求実現とさらなる制度の充実を実現しよう！

7月31日 【申4号】(2025年7月23日 申し入れ)
「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた組織と働き方について」における「セカンドキャリアスタッフ」の募集に見られる不誠実対応を是正し、建設的な労使議論に踏まえた施策実施を求める緊急申し入れ 団体交渉

施策実施に必要な資料・情報開示
会社が拒否

労使合意に基づかない会社による施策の一方実施その強行が主張され続けたため、不当労働行為を通告！

8月8日 【申5号】(2025年8月8日 申し入れ)
「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた組織と働き方について」における「新たな人財戦略および人事・賃金制度等」に関する解明申し入れ

全機関での職場討議を経て
解明要求として全135項目を提出

8月21日

【申3号】(2025年7月18日 申し入れ)
「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」における「組織再編」に関する解明申し入れ 団体交渉

8月21日の第1回団体交渉では、第1項～第3項および第16項について、回答を踏まえた議論を行いました。しかし、誠実交渉義務と各労働組合への中立保持義務を果たさない会社姿勢から、交渉終了後に右記の通りの通知書を手交しています。

《主な会社回答》

- ◆ 地域によって異なるニーズを把握し、スピード感を持って対応、期待や創造を上回るサービスを提供していくために、36事業本部の権限でスピード感を持つ判断をしていく
- ◆ 事業本部となっても各系統の仕事は残り、人としての仕事とした概念は残る
- ◆ 安全の上にてできる期待がある。今後はさらに期待を超えて社員に「力」をつけることとそのフィールドが必要
- ◆ 社員1人ひとりに対する育成プランは様々であり、社員の特性などの把握、考えや想いを実現させられる体制が必要
- ◆ 事業本部の業務量と要員については系統ごとの要員、出面数の考え方を踏襲していく
- ◆ 現在、本部・支社が行っている業務を36事業本部に何をどのように移管させていくのか、それに伴う要員の配置の仕方については検討中。また、事業本部内の地域共創ユニットにおける系統(駅、乗務員など)ごとの示し方も検討中とするも地方提案の際には具体的に示していく
- ◆ 必要な業務量の考え方は変わらない。業務の専門性や上位職だけをめざすものが成長と捉えるのではなく、専門性を持ちながら成長することも必要
- ◆ JR本体とグループ会社間における人材交流を目的とした「出向」は現行約2,500名。この数は増やしていく。原則出向とするのは、グループの体制維持、人の循環の必要性から行うためであり、これまでの経験を生かしてほしいとの考え

< 通知内容 >

JR東日本輸送サービス労働組合は、2025年5月7日「JR東日本のさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」の提案を受けた際、会社より、労使交渉にあたっては、地方交渉における十分な時間をとる必要性に踏まえ、一定の時期に考えを示していくことを前提にスケジュール感をもって信義誠実に取り組む考えであり、貴組合においてその趣旨を理解していただき具体的な要求等をお願いしたいとの要請を受けました。

私たちは、今提案内容は、組合員の雇用、生活、賃金、働き方に大きな影響を及ぼす重要なものであると考えており、組合員と家族の利益を守るために真摯かつ建設的な労使協議に向き合う姿勢を明らかにしてきました。よって、5月8日に申38号第一次解明申し入れを提出、それ以降も7月1日に申41号医療部門における解明申し入れを提出、7月18日に申3号組織再編に関する解明申し入れを提出、そして、8月7日に人事賃金制度に関する申し入れを提出し、精力的に労使協議を進めていくために取り組んできました。

しかしながら、団体交渉は、現在申38号のみ終了しており、申41号交渉は全14項目中5項目までしか終了しておらず、申3号交渉に至っては、申し入れ提出以降一箇月以上も経過した8月21日ようやく第一回交渉を行うという状況です。

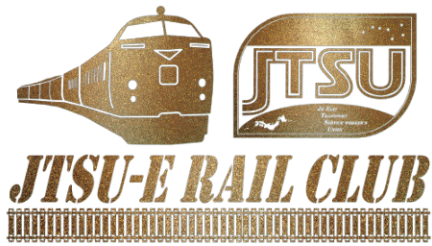
前述したように、会社よりスケジュール感をもって取り組むことを要請していながらも、交渉等が遅々として進まない事実は、恣意的に交渉期日を先延ばしにしていると言わざるを得ません。他方、一部の労働組合の情報によれば、一部労組との団体交渉においてはスムーズに進められていることが明確になっています。

施策実施に向けた労使交渉が円滑かつ建設的に進められないことは、信義誠実の原則に反するだけでなく、組合員の不利益を被る事態と言え、到底看過することは出来ません。会社は、各労働組合に対して中立的態度を保持し、各労働組合の団結権を平等に尊重する義務を履行すべきであるにもかかわらず、今交渉等において各労働組合との対応に大きな差異を生じさせていることは、労働組合間による差別的な取り扱い是不当労働行為です。

これらは、直面する課題に誠実に向き合うことなく団体交渉を先送りし続けてきたJR東日本の責任は重大であることから厳重に抗議します。また、施策実施に向けた労使協議を成熟させるための努力を惜みず、労使間の取扱いに関する協約等に則り、中立保持義務ならびに誠実交渉義務の履行を強く求めます。

レク・サークル

楽しい時間を仲間とシェア！仲間との“絆”を深めよう！



JTSU-E RAIL CLUB 団臨 東武スペース貸切ツアー

7月30日 for 東武日光 組合員・家族226名が参加



7月30日、レールクラブ団臨「東武スペース貸切ツアー」を開催し、総勢226名の組合員・家族・仲間が参加しました。

当日は、東武100系「スペース」での旅を楽しんだのち、日光での観光やスイーツ巡り、温泉やSL大樹号への乗車など、思い思いの時間を満喫しました。（レールクラブ発）



ヒューマン・エコロジークラブ

森林生活の知恵、恩恵を感じた2日間！ ブッシュクラフトキャンプ&総会

8月8～9日@百軒茶屋キャンプ場 総勢30名が参加



8月8～9日、東京都奥多摩町百軒茶屋キャンプ場にて、第4回ブッシュクラフトキャンプ、第5回総会を開催し、30名の仲間とともにキャンプを通じ、地球沸騰化や分断社会の中で今を生きる私たちが、人間らしく暮らすため「何をすべきなのか」を語りあう2日間になりました。

総会では、私たちはこれからも「人間とは何であり、どうあるべきか」「心の豊かさとは何か」を問い続けていくことを確認し、向こう1年間活動していくことを確認しました。（ヒューマン・エコロジークラブ発）